【令和元年度実績】

1. 改組に伴う新分野の創成

No.19 ①-1 長期的視野に立脚した基礎研究の充実

No.22 ②-1 経済・社会的課題に応える戦略的研究の推進

No.63 ①-1 教育研究組織の点検・見直し

計画

2019 年度 4 月の大学院文学研究科の改組において、三つの専攻の中にそれぞれ「現代日本学」「死生学・実践宗教学」「計算人文社会学」という新たな専攻分野を創設し、学生の受け入れを開始した。これらの分野は、第3期中期目標期間における機能強化に向けた取組戦略(2)「高度な教養、専門的な知識及びグローバルな視野を備えた指導的人材を養成」に沿った人文社会科学人材養成プログラムを中心的に担うものであり、今年度中に様々な取組を計画している。一例として、グラナダ大学等との教育・研究連携促進に向けたスタートアップ・イベント「スペイン文化の夕べ」の開催（6 月 16・17 日）、「臨床宗教師指導者養成プログラム」の実施（2019 年 5 月～20 年 2 月）、台湾中央研究院社会学研究所からの教授招聘による行動科学・計算人文社会学合同大学院生セミナーの実施（10 月）、などがある。

実績報告

新設の三分野では、それぞれの目標に沿った教育・研究・社会貢献活動を展開した。

現代日本学では、新たな日本学研究拠点の形成をはかるため、東北大学国際文化研究科と共同で、「東北大学日本学研究会」を発足させ、2020 年 2 月 21 日に第一回の学術大会を開催し、教員・学生約 50 人の参加を得た。以前より所属教員を中心に実施している留学プログラム「21 世紀シーボルトプログラム」では、2019 年 10 月に日本学国際共同大学院に参加する協定校からの学生を、15 人受け入れた。2020 年度も JASSO の支援を受けて 11 人受け入れることが決まっている。研究交流面では、中国・山東大学国際漢学研究センターが企画する「世界における漢文古書の目録編纂と複製作業」に参画し、10 年間の共同調査・研究を開始した。

死生学・実践宗教学では、実践宗教学寄附講座と共同で、次代の臨床宗教師・スピリチュアルケア師養成を担う指導者を育成するための「臨床宗教師指導者養成プログラム」を 2019 年 5 月から 2020 年 2 月にかけて実施した。二つの履修証明プログラム、第3期「臨床宗教教養講座」及び第2期「臨床宗教師実践講座」については、「多面的な社会貢献」の項目に記載する。これらの教育活動以外に、各地臨床宗教師会主催臨床宗教師フォローアップ研修での講師を 15 回、大学主催臨床宗教師養成講座での講師を 7 回、各地医師会・医療分野学会等での講師を 19 回、引き受けた。

計算人文社会学では、アジア・ヨーロッパの研究者との共同研究、及びワークショップを通じた学生のグローバル教育に力を入れている。2019 年 6 月 12 日、スウェーデン・リンショーピン大学における国際ワークショップに参加し研究報告を行った。10 月 7 日には台湾・中央研究院社会学研究所から Yen-Sheng Chiang 博士、Chyi-In Wu 博士を東北大学に招き、行動科学分野を含

む大学院生による合同ゼミを実施した。2020 年 1 月 19 日には、香港城市大学の Jonathan Zhu 博士、Shaofan Liu 博士、ユトレヒト大学の Vincent Busken 教授を東北大学に招聘し、ワークショップを実施した。

---

2. 教育の国際化の推進

No.03 ②-2 大学院教育の充実

No.42 ①-3 グローバルネットワークの形成・展開

No.43 ②-1 外国人留学生の戦略的受入れと修学環境の整備

No.44 ②-2 本学学生の海外留学と国際体験の促進

計画

アジア、ヨーロッパ、さらにアフリカも視野に入れながら、受け入れ・派遣両面で教育の国際化を推進する。
(1) 受け入れ
受け入れでは、DEEp-Bridge による主としてアジアからの留学生を、2019 年も 18 人を受け入れる（2018 年度 14 人）。文学部・文学研究科独自の「21 世紀のシーボルト養成プログラム」では、イタリア、スペイン、ハンガリー、スイスなどから 11 人の学生を受け入れる。また一般財団法人東北多文化アカデミーとの共催による短期の日本文化研修プログラムでは、7 月から 8 月にかけて、30 人の中国人学生を特別訪問研修生として受け入れた（昨年度 31 人）。加えて、10 月から 1 月にかけて吉林大学で日本学を学ぶ大学院生 7 人を 3 ヶ月間特別訪問研修生として受け入れる。さらに「第 3 回東北大学・南開大学国際日本学ワークショップ」（10 月）に 5 人の大学院生を招聘する。
(2) 派遣
派遣では、交換留学プログラムにより、9 月から 21 人（昨年度 16 人）をアメリカ、イタリア、フランス、ドイツへ送り出す。また、タイ・チュラロンコン大学（6 月、4 人）及び台湾・國立中正大学（10 月、3 人）との国際共同シンポジウムへの大学院生派遣、国際交流基金の支援によるタイ・サイアム大学及び中国・海南大学への海外日本語教育インターンプログラム（2 月、計 6 人）などを実施する。日本学国際共同大学院関連では、支倉リーグによる国際学生ワークショップを、11 月にクラクフ（ポーランド）及びボローニャ（イタリア）で、また 3 月にヴェネツィア（イタリア）で開催し、他研究科を含む大学院生を送り出す。
(3) アフリカ
本研究科教員（フランス文学）が、サハラ以南アフリカ諸国との交流の可能性について調査するため、2019 年 3 月にコートジボワールの三大学を訪問したが、その後本部国際戦略室との協議・情報共有を経て、TICAD(アフリカ開発会議)（8 月）に参加する。年度後半には研究科経費によってガーナ等を訪問し、調査範囲を拡大する。

実績報告

(1) 受け入れ

受け入れでは、DEEp-Bridge による主としてアジアからの留学生を、9人を受け入れた（昨年度 14 人）。文学部・文学研究科独自の「21 世紀のシーボルト養成プログラム」では、イタリア、スペイン、ハンガリー、スイスなどから 15 人の学生を受け入れた。また一般財団法人東北多文化アカデミーとの共催による短期の日本文化研修プログラムを、7 月・8 月・1 月に計 4 回にわたって実施し、計 42 人の中国人学生を特別訪問研修生として受け入れた（昨年度 31 人）。また、10 月から 12 月にかけて吉林大学で日本学を学ぶ大学院生 7 人を 3 ヶ月間特別訪問研修生として受け入れ、研究指導を行った。さらに「第 3 回東北大学・南開大学国際日本学ワークショップ」（10 月）に 5 人の大学院生を招聘した。

(2) 派遣

派遣では、交換留学プログラムにより、9 月から 21 人（昨年度 16 人）をアメリカ、イタリア、フランス、ドイツへ送り出した。また、タイ・チュラロンコン大学（6 月、4 人）及び台湾・國立中正大学（10 月、3 人）との国際共同シンポジウムへの大学院生派遣、国際交流基金の支援によるタイ・サイアム大学及び中国・海南大学への海外日本語教育インターンプログラム（2 月、計 6 人）を実施した。日本学国際共同大学院関連では、支倉リーグによる国際学生ワークショップを、11 月にクラクフ（ポーランド）及びボローニャ（イタリア）で、また 2 月にローマ（イタリア）、3 月にバンクーバー（カナダ）で開催し、他研究科を含む計 15 人の大学院生を送り出した。

(3) アフリカ

本研究科教員（フランス文学）が、サハラ以南アフリカ諸国との交流の可能性について調査するため、8 月に TICAD（アフリカ開発会議）に参加した後、12 月にケニヤ・マダガスカル、2 月にゴートジボワール・ガーナを訪問し大学関係者、JICA 等との面談・協議を行った。なおこの活動は、東北大学国際戦略室の支援のもとで実施している。

---

3. 研究の国際化の推進

No.21 ①-3 国際的ネットワークの構築による国際共同研究等の推進

No.41 ①-2 国際発信力の強化

計画

(1) 日本学
東北大学研究イノベーションシステムの中での日本学国際研究クラスターの活動として、11 月にボローニャで開催するシンポジウムに、文学研究科黒岩准教授をクラスター代表として派遣する。加えて、国際カンファレンスを 12 月に仙台で実施し、シリーズ化している英語による書籍刊行の準備を行う。
(2) 中国
中国との研究交流では、吉林省文物考古研究所の研究者を招聘しての国際共同セミナー（6 月実施済み）、吉林大学外国語学院主催「東アジア語言文化基地集会」への教員 2 名の派遣（11 月）などを計画する。また、これまで手薄な中国南部の大学との人文科学分野での交流を促進するため、4 月、上海に所在する復旦大学、華東師範大学、及び上海交通大学へ 2 名の教員を派遣する。

(3) 交流協定
2019 年度中の学術交流協定の新規締結としては、大学間協定の関係部局を 3 件、部局間協定を 2 件（8 月現在進行中のものを含む）予定している。

実績報告

(1)日本学

日本学国際研究クラスターの代表として、黒岩准教授がボローニャ大学で開催されたシンポジウム“Image, Philosophy, Communication”（ 11 月 11、12 日）に参加し、“The use of images in Japanese adaptations of the Song of Roland for children”と題する研究発表を行った。また他の研究者の発表の際には積極的に質疑応答に参加し、ボローニャ大学ほか支倉リーグに参加している諸大学の教員たちとの交流に努めた。

12 月 14、15 日には仙台において、“Aging and Maturing of Japan and the World”というタイトルで The Second Tohoku Conference on Global Japanese Studies（第二回日本学国際カンファレンス）を開催した。Plenary Session には、University of East Anglia から基調講演の教員を 2 名迎えるとともに、東北大学からも 2 名の教員による講演を得た。同時に 6 つのワーキンググループを、宗教や政治と法といった多分野にわたるテーマで設けた。全体として、教員から院生まで 40 名の講演と発表があり、参加者は約 100 名に達した。成果は、“Tohoku Journal on Global Japanese Studies”として公開する予定であり、現在、投稿規定作成の最終段階である。これを 2020 年 4 月には告知し、成果物を同年内に公開する段取りになっている。

2019 年 4 月に新設された日本学専攻現代日本学専攻分野は、国際文化研究科国際日本研究講座と共同で、日本学研究会を立ち上げ、2 月 21 日に第 1 回学術大会「文学におけるジェンダーと宗教」を開催した。

2018 年 3 月にベルギーのヘント大学および 2018 年 11 月にイタリアのベネチア大学で開催されたシンポジウムの成果をもとに、"Disaster and Trauma in Experience, Understanding, and Imagination"(2020 年 2 月),"FURUSATO"(2020 年 3 月)の二冊の英文論文集をミラノの出版社から刊行した。

(2)中国

考古学分野と吉林省文物考古研究所との国際共同セミナーは、6 月 19 日に本研究科で開催され、日中それぞれ 1 本ずつの研究報告があった。

11 月には、吉林大学外国語学院主催「東アジア語言文化基地集会」へ、予定通り教員 2 名を派遣し、それぞれが講演、講義を行った。

復旦大学、華東師範大学、及び上海交通大学へは 4 月に 2 名の教員を派遣し、復旦大学歴史系とは学術交流協定の締結に至った。同協定に基づいて 12 月から交換留学生を受け入れている。このほか、これまでの交流が実って首都師範大学歴史学院、北京師範大学歴史学院とも交流協定を締結している。

(3)交流協定

2019 年度は、以下の研究機関と学術交流協定 7 件を締結した。

・チュラロンコン大学心理学部（タイ）

・首都師範大学歴史学院（中国）

・北京師範大学文学院（中国）

・復旦大学（中国）

・北京師範大学歴史学院（中国）

・上海大学社会学院（中国）

・海南大学外国語学院（中国）

（締結順）

---

4. 領域横断的な教育・研究の推進

No.07 ②-6 世界を牽引する高度な人材の養成

No.22 ②-1 経済・社会的課題に応える戦略的研究の推進

No.25 ③-1 新たな研究フロンティアの開拓

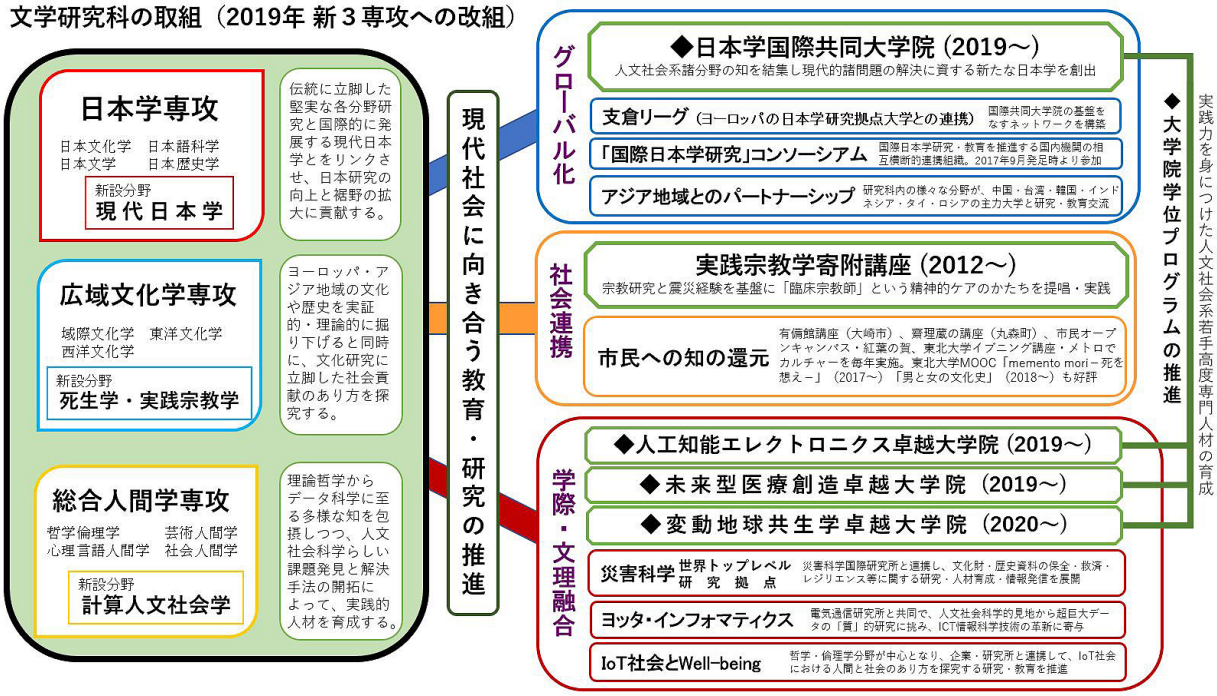
計画

(1) 学位プログラム
4 月から、日本学国際共同大学院プログラムを開始したことに加え、人工知能エレクトロニクス及び未来型医療創造の二つの卓越大学院プログラムに参加し、それぞれ 3 名、1 名の大学院生をプログラム生として送り出した。研究科内に設置した「日本学教育研究推進タスクフォース」及び「卓越大学院対応ワーキンググループ」を中心に、工学・医療分野との教育的連携を進め、プログラム学位制度の推進に貢献する。なお、本年度採択された「変動地球共生学卓越大学院プログラム」にも参画する。
(2) 新領域創成部
本研究科坂井教授と電気通信研究所とが共同で 2018 年 3 月に設置した新領域創成部「多感覚情報統合認知システム」では、昨年 NICT とのマッチング研究支援事業に採択されたことを受け、共同研究を本格化させる。また亀田製菓株式会社との共同研究も継続し、成果を国際学術誌に発表する。
(3) 防災科学
東北大学災害科学国際研究所・神戸大学人文学研究科・国立歴史民俗博物館による「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」に本研究科木村敏明教授が参画し、特に無形民俗文化財の記録保全のための実践映像民俗講座を担当している。本年度は既設の初級編

に加えて上級編を開講し、この取り組みについては、日本で初めて開催される国際博物館会議（ICOM、9 月、京都）で災害研と共同報告を行う。

実績報告

2019 年 4 月の研究科改組は、現代社会の要請に応えることのできる分野横断的な教育・研究の推進をそもそもの目的としている。新分野の創設はそのひとつの戦略であるが、 同時に、新たな教育プログラムの実施や、新研究領域の創出、他部局・他機関との連携強化など、様々な取組を進めてきてきた。まずその概要を以下に図示する。



(1) 大学院学位プログラムの推進

教育面では 4 月からの日本学国際共同大学院と、「人工知能エレクトロニクス」及び「未来型医療創造」卓越大学院の開始が大きな事業であり、それぞれに 3 人、3 人、1 人の初年度プログラム学生を研究科から送り込むとともに、教育指導を開始した。また、2020 年 4 月から始まる「変動地球共生学」卓越大学院にも 2 人の合格者を出した。これらの教育活動を研究科全体として支援するため、「日本学教育研究推進タスクフォース」及び「卓越大学院対応ワーキンググループ」を稼働させ、工学・医学・理学各研究科との連携を進めた。

(2)日本学

日本学国際共同大学院に関しては、中軸部局として運営の舵取りを担い、国際連携の基盤となる「支倉リーグ」協定校の教員・学生の参加により、分野横断的なテーマによる海外学生ワークショップ、国際シンポジウム、国際カンファレンスを開催した（「教育の国際化の推進」「研究の国際化の推進」を参照）。また今年度から新たに日本学国際共同大学院有識者特別講義を不定期に開催（第 1 回 10 月 3 日、第 2 回 1 月 9 日、第 3 回 1 月 23 日）し、一般市民も含めた多くの参加

者を得た。さらに新規の「日本学シンポジウム」（2 月 15 日）では、「公共性」をメインテーマにして哲学・美術・建築など分野を横断した討議を行った。

(3)情報・データ科学

本研究科心理学と電気通信研究所による新領域創成部「多感覚情報統合認知システム」事業は 2018 年 3 月の発足後 2 年を経過し、外部企業との共同研究や NICT とのマッチング研究など積極的に展開した。2 月に高等研究推進機構で成果の中間報告が行われた。同じ通信科学研究所及び東京エレクトロン株式会社との連携による「IoT 社会と well-being」は、哲学・倫理学分野による文理融合教育の取組であり、2019 年度の第 2 回のワークショップには 15 人の大学院生が参加した。

(4)防災科学

世界トップレベル災害科学研究拠点の人文学ユニットに参画し、特に無形民俗文化財とレジリエンスに関わる研究活動を推進した。2 月 19～22 日には、本研究科教員がコーディネーターとなって国際ワークショップ “The Practicalities and ethics of dealing with disaster remains & cultural heritages” を開催した。また文化庁委託事業「無形文化遺産保護条約に係る国際動向調査」を受託し、12 月にコロンビアで開催された無形文化遺産政府間委員会に参加してその動向の調査分析を行った。

文学研究科プレゼン資料案1頁版 b.jpg

---

5. 多面的な社会貢献

No.06 ②-5 社会人の学び直しの支援

No.35 ②-1 社会連携活動の全学的推進

No.36 ②-2 知縁コミュニティの創出・拡充への寄与

No.37 ①-1 東北大学復興アクションの着実な遂行

計画

文学研究科の持つ知的資源を社会に還元し、市民生活の質的向上及び文化遺産の保全に寄与するため、以下のような活動を継続的に展開する。

(1) 市民教育

研究成果を公開し人文社会科学の魅力を一般市民に伝えるために、「第 18 期有備館講座」（5 月 18 日～9 月 21 日、5 回、大崎市）、「第 12 期齋理蔵の講座」（6 月 1 日～10 月 5 日、5 回、丸森町）、「第 15 回市民オープンキャンパス・紅葉の賀」（11 月 3 日、東北大学植物園と共催）、「第 5 回東北大学イブニング講座・メトロでカルチャー」（令和 2 年 3 月予定）を実施する。また、東北大学 MOOC では、「memento mori－死を想え－」（8 月開講）、「男と女の文化史」（1 月開講）を引き続き提供する。

(2) 史料・文化財の保存・研究・公開

日本史分野では、丸森町宗叶院文書、白石市遠藤家文書などの調査、及び北上市・岩沼市等

自治体史の編纂事業協力を継続し、その成果は逐次公開している。また、福島県伊達市、国見町等の史跡の保全・活用の委員会委員をつとめる。考古学分野では、考古学資料の収集・保全・調査を継続し、中国・ロシアの研究所・大学との間で共同研究を進めるかたわら、東京国立博物館「特別展・出雲と大和」（令和 2 年 1～3 月）、福島県立博物館「企画展・動物の考古学」（9～11 月）などへ資料を出展する。東洋日本美術史分野では、科学研究費基盤研究(A)により平安～鎌倉時代の仏像調査を継続しており、今年度中に成果報告書を刊行する。また、奥州市の依頼による同市所在仏像調査も続けており、この研究は平成 30 年度の新たな文化財指定に寄与した。

(3) 実践宗教学寄附講座

実践宗教学寄附講座は、4 月から第 4 期がスタートした（令和 3 年度まで）。2019 年度は履修証明プログラム「臨床宗教教養講座」（第 3 期）を開講する。これには、定員 24 名に対して約 100 名の応募があり、社会的関心の高さがうかがわれる。また、前年度の同講座受講者のうち希望する者に対して上級コースである履修証明プログラム「臨床宗教実践講座」（第 2 期）を開講する。加えて、各地臨床宗教師会主催臨床宗教師フォローアップ研修や、各地医師会・医療分野学会等への講師派遣を継続的に実施する。

実績報告

(1) 市民教育

以下のような市民向け講座を開催した。

「第 18 期有備館講座」（5 月 18 日～9 月 21 日、5 回、大崎市） のべ 161 名が参加。

「第 12 期齋理蔵の講座」（6 月 1 日～10 月 5 日、5 回、丸森町）のべ 149 名が参加。

「第 15 回市民オープンキャンパス・紅葉の賀」（11 月 3 日、東北大学植物園と共催）416 名

東北大学 MOOC でも以下が行われた。

「memento mori－死を想え－」（8 月開講）鈴木名誉教授（総長特命教授）

「男と女の文化史」（1 月開講）高橋教授、嶋﨑教授、横溝教授

なお、2020 年 3 月開催を予定していた「第 5 回東北大学イブニング講座」は、コロナ禍のため中止のやむなきに至った。

(2) 史料・文化財の保存・研究・公開

日本史分野では、丸森町宗叶院文書などの調査、及び北上市・岩沼市等自治体史の編纂事業協力を継続した。また、福島県国見町では、柳原教授が同町歴史文化基本構想策定委員会委員長として「歴史文化基本構想」をとりまとめ、12 月に町長に対して建議を行った。また、同分野では、所蔵する古文書を群馬県立博物館企画展「大新田氏展」（4～6 月）に出展した。

考古学分野では、「研究の国際化の推進」で記したような中国との学術交流とともに、ロシア（ロシア極東連邦大学、ノボシビリスク大学、ロシア科学アカデミーシベリア支部）との研究交流も推進し、成果は国際共著論文として公表される予定となっている。2 月 17 日には、本研究科の鹿又准教授が中心となって「知のフォーラムのフォローアップ」“Integration of Humanities with Sciences: New Logistics understanding Human Adaptations in Northeast Asia”が開催され、

ロシア、デンマークの研究者の報告も行われた。3 月 24 日にも、ロシア科学アカデミーの研究者を交えて、国際セミナーが計画されている。福島県立博物館「企画展・動物の考古学」（9～11 月）、東京国立博物館「特別展・出雲と大和」（1～3 月）へは予定通り資料を出展し、好評を得た。

東洋日本美術史分野では、科学研究費基盤研究(A)により平安～鎌倉時代の仏像調査を継続し、2019 度は一関市博物館、栃木・輪王寺ほかで調査をおこなった。4 年間の研究成果報告書は 3 月中に刊行予定である。また、岩手県奥州市の依頼による同市所在仏像調査においても、山ノ上観音堂において平安彫刻を新たに見いだし、今後の文化財指定の基礎資料とした。

(3) 実践宗教学寄附講座

履修証明プログラム「臨床宗教教養講座」（第 3 期）は、受講者 24 名（定員同）にて、4 月中旬～2 月末まで実施した。同講座の 4 期についても受講者の募集を行い、2 月 19 日に締め切った。131 名の応募があり、高い関心が持続していることが裏付けられた。「臨床宗教実践講座」（第 2 期）は、16 名が受講し、全員修了の予定である。

臨床宗教師会主催臨床宗教師フォローアップ研修や、各地医師会・医療分野学会での研修については、3 名の教員が、北海道から九州まで文字通り日本全国で講師を務めた（総計 40 回以上）。また、谷山准教授は、2019 年度下半期に放送された TBS ドラマ「病室で念仏を唱えないでください」においてチャプレン監修をつとめている。